

【理念】

主に難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療・保健・療育・福祉サービスの県の中核機関として、安心・信頼・満足の得られる医療・ケアの包括的なサービス提供を行います。

【基本方針】

- 高度な専門知識と技術の向上に努め、良質で安全な科学的根拠に基づいた医療を、十分な説明と納得の上で提供します。
- 地域の医療、保健、療育、福祉、教育機関との機能分担・連携を図ります。
- 小児の医療、保健、療育、福祉にたずさわる専門家の育成、学生教育への協力および臨床研究を通じて、県下の小児保健医療の発展と向上に貢献します。
- 県立病院の使命としての政策医療を推進します。

診療科等のご案内

◆ 標榜科

小児科、精神科、整形外科、小児外科、眼科
耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科

◆ 外来

小児科：内科系
総合内科、神経内科、アレルギー科、頭痛、心臓内科
腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ科

小児科：外科系
泌尿器化、脳神経外科、形成外科

小児科：その他
肥満、発達障害、ダウン症

◆ その他

予防接種

◆ 病床数 100床

ご利用案内

◆ 外来診療

- 小児科（総合内科）を除き、原則として予約制です。
- 診療時間 午前 9時00分～午後 5時00分
- 予約受付時間 午前 8時30分～午後 5時00分
- 休診日 土・日・祝日・年末年始

◆ 初診時の注意点

- 0～18才未満の方を対象としています。

◆ 初診時に持参いただくもの

- 保険証（国保・協会健保・共済等）：受診時毎月提示してください。
- 母子健康手帳（乳幼児の場合・精神科（こころの診療科）受診の場合）
- 医療券（公費負担をご利用の場合）

★予約直通電話：077-582-8425★

小児科（総合内科）は予約なしで受診していただけます。
診療受付は午前11時30分（月～金）までです。

地域医療連携室ご利用案内

- 受付時間 月曜日～金曜日
午前9時00分～午後4時30分
（土、日、祝日、年末年始は除く）
- 直通電話 077-582-6222
- FAX番号 077-582-6276



滋賀県立小児保健医療センター（編集発行）

〒524-0022 滋賀県守山市守山五丁目7番30号

Tel：077-582-6200

Fax：077-582-6304

HP：http://www.med.shiga-pref.jp/mccs/



在宅療養支援への取り組み

当センターは、県下全域から在宅療養に対する支援を必要とされる患者さんが多く利用されています。また、高度な医療的ケアの必要な子どもたちの初めての在宅移行への支援も積極的に行っており、平成25年度からは県の委託を受けて、正式に県内NICUの後方支援病院として長期にNICUに入院している子どもたちの受け入れ支援を行っています。

保健指導部では、子どもたちが安心して自宅へ帰り、安定した在宅生活を送れるように、保健師やメディカルソーシャルワーカー、在宅療養支援看護師が協力して、地域関係機関（病院、診療所、訪問看護ステーション、保健所、園・学校、市町、通所・作業所、相談支援専門員等）との連携を行い、切れ目のない支援に力を入れて活動しています。

小児保健医療センターで在宅療養指導を行っている患者さんの分布図

（平成27年2月現在）

【主な対象者数（重複あり）】

人工呼吸器：59名

経管栄養：138名

気管切開：34名

在宅酸素：52名

自己導尿：43名



エピペン®は有効に使われているか？ —当院での取り組み—

食物アレルギーの増加は著しく、なかでもアナフィラキシーのリスクがある症例にはアドレナリン自己注射薬「エピペン®」の処方が必須であり、当院でも今までに実数で200名以上の処方実績があります。ところが、処方後にアナフィラキシーを起こした症例のうち実際にエピペン®を使用したのはわずか25%であり、必要時に適切に使用できていない実態が明らかになりました（2014年度アレルギー誌に報告）。そこで当院では、必要時にためらわずにエピペン®を使用してもらえよう、専門の医師、看護師が様々な工夫をしています。まず処方が決まったら当科オリジナルのエピペン®指導DVDを視聴するとともにその資料プリントをお渡しし、使い方、使うタイミング、保管の仕方、保育所・幼稚園や学校との連携について詳しくお話します。そのうえで、エピペン®お渡し時には医師から再度説明して練習用トレーナーによる実技を行い、その後は外来受診の際に専門の看護師を始め外来看護スタッフが手技の確認を行います。使用期限が来て更新する際には、期限切れのエピペン®を用いて指導用人形に実際に打つ練習をしてもらいます。エピペン®携帯が必要な重症食物アレルギーの患者さんがおられたら、ぜひ当院アレルギー外来をご紹介下さい。



【指導用人形を用いた実技指導】

子どもの力を引き出す プレパレーション（心の準備）

「プレパレーション」とは、行われる医療処置を子どもに説明するだけでなく、子どもがその子なりに主体的に医療処置を乗り越えることができるように、子どもの対処能力・頑張りを引き出すケアを言います。

子どもにとって重要な存在である保護者の参画も大切にしながら関わります。子どもたちが最後まで頑張ることができるように支援する事が大切です。

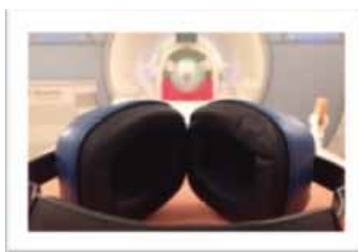


小児病院におけるMRI検査のTips

MRIは狭い筒内で騒音に耐え、かつ動いてはいけないという、子どもにとっては恐怖の検査の一つです。ゆえに小児患者ではプレパレーション（心の準備）が大切です。



安静保持が難しい乳児・幼児には睡眠導入剤を用います。



しかし睡眠導入剤が常に効果的な睡眠に貢献してくれるわけではないため、左写真のような騒音防止のためのイヤーマフや、入眠を待つ根気が非常に重要です。睡眠導入剤投与後4時間後に撮影

できることも当院ではまれではありません。

小学生頃になると事前説明も有効です。「MRI検査は写真撮影」、「写真撮影だから痛くない」、そして「両親と一緒に入室できる」ことを何度もゆっくりと伝えることが成功への近道と考えます。

当院では県内唯一の子ども病院として、子ども目線に立ってMRI検査が成功するための努力をしています。

（放射線科 福田篤志）

外来（処置室）における採血の取り組みから

当院の外来における採血場面では、子どもの年齢や理解の状況を見極めて説明を行います。また、採血の姿勢も子ども達に選んでもらいます。お母さんに抱っこしてもらい実施する方法や、右記の写真のように、おままとテーブルで実施する方法等・・・と



子ども自身が座ってDVDを見ながら行うことを選びました。

子ども達は自分で決定した事には、一生懸命取り組んでくれます。

大きな声で泣きながら、でもじっと採血を行う手は動かさないなど、子どもなりの頑張る姿があります。この「できた！」という経験を子どもにフィードバックすることが、子どもの自

信となり、子どもの成長発達に大きく影響します。

今後も、子どもたちが主体的に処置に臨めるように関わっていきます。

どれが見たいかな？（外来師長 津田雪代）

